

補增

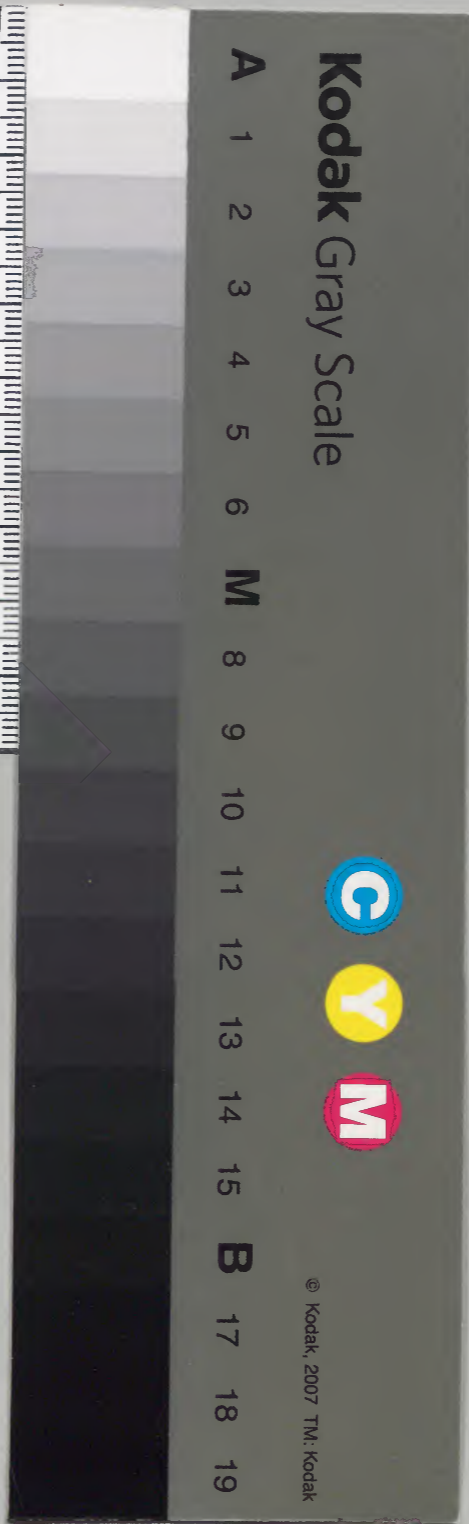
江戸名所波素志

二

和書門類			
二五	五五	號	類
一九	函	架	冊
四	冊		

內閣文庫			
五	四	五	五
函	冊	號	類
五	四	冊	架

內閣文庫		
番號	和	25055
冊數	4 ( 2 )	
函號	174	55



第十一 第十 第九 第八 第七 第六 第五 第四 第三 第二 第一

増補 石部 徳通院 第二卷目録  
金杖村乃 天神  
金剛寺  
名村乃 極樂の井  
曹司 谷法明寺  
牛乃 穴八幡宮  
築土の 明神 附 赤木乃 明神  
海邊 此井  
松本 右馬の 橋  
深谷 金王 橋





- 第十二 長者九并若貝橋
- 第十三 麻布龜子山若福寺
- 第十四 東福寺の茶作如來
- 第十五 紫雲山陽聖寺
- 第十六 東食持如來
- 第十七 行人坂附六軒茶屋
- 第十八 大蔵屋
- 第十九 安楽民院
- 第二十 目黒不動
- 第二十一 池田村本門寺
- 第二十二 石川乃多月觀音
- 第二十三 東海寺附二僧乃事

第一

小石川の借通院

江ノ浦巻第三

小石川の色へともひりさんとしてらつてゆく程に  
 多摩山壽經寺借通院より。高寺に明德年中に西  
 蓮社聖間不與上人乃完基也。中女堂に惠心僧於此に  
 住居像の河津池也。東邊六の山相言於此。當世乃若界と  
 隣に。定乃令及十方として。おまひく念佛乃前生に  
 授けぬ。孫不孫不孫上人。只常のぬ知我あてあつりし  
 西のよ。之日月生の。あがみそ。富新。灯の。是の  
 わらり光とてあり。聖教としてして。勤学あされらる。也  
 御製他の書籍。乞又教巻も。也。延永七。辰年  
 九月廿七日。以年八十歳。あ。入寂。あ。去。あ。今。の



浪心寺



勢下... 社... 乃... 天...  
勢下... 社... 乃... 天...  
勢下... 社... 乃... 天...

第三 金剛寺

そ... 金剛寺... 乃... 天...  
そ... 金剛寺... 乃... 天...  
そ... 金剛寺... 乃... 天...

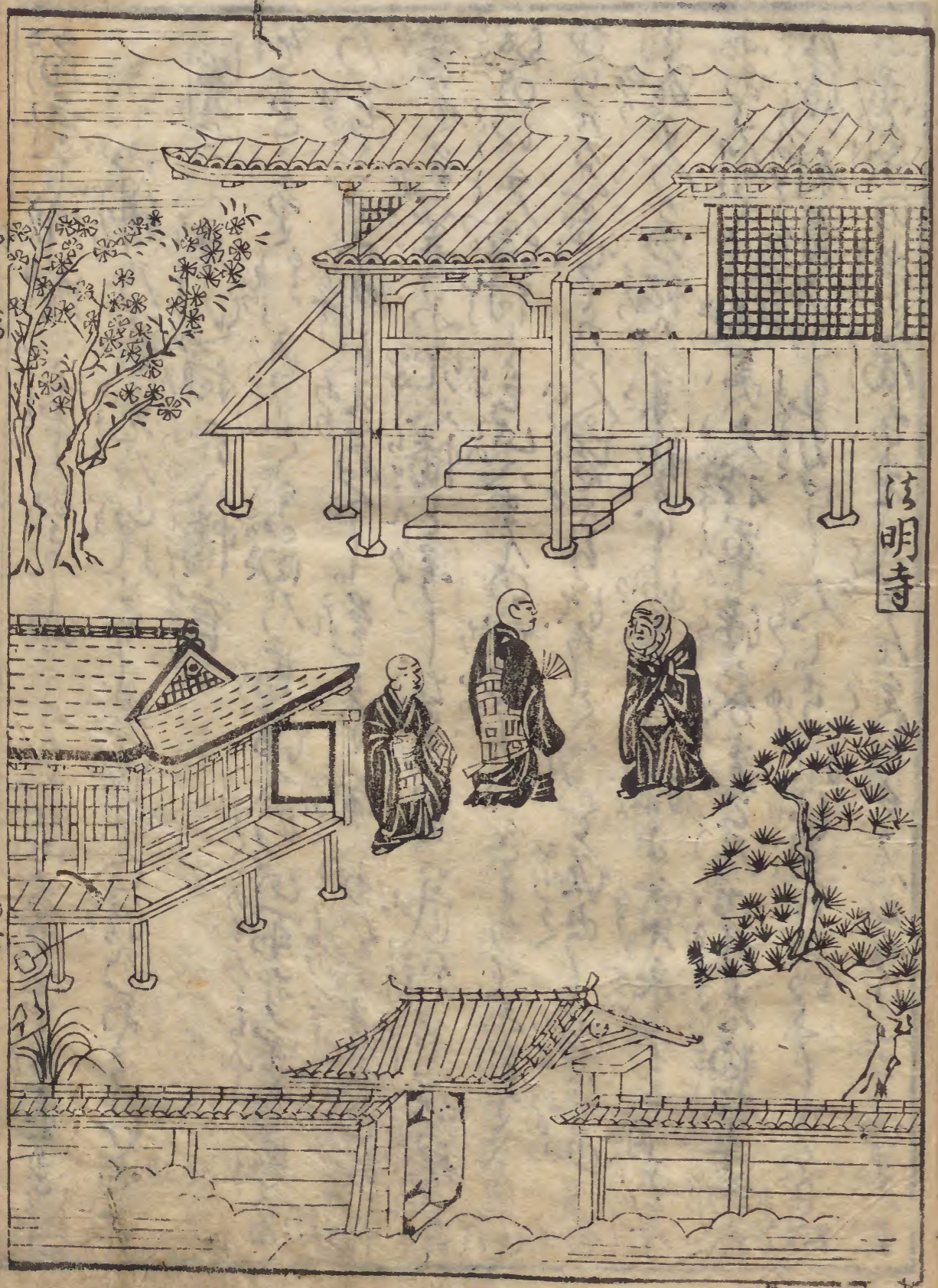


お道也門乃因あむかに奇家乃察も遠くもつて  
可只二極よ終頭とてけいふくてもさく二首に毎ふ生  
松の本二方、相かくとふ貫と海くもくせう遠也西乃  
新の回縁以後神社仙寺かたどくは伝らあさあ或地と  
く西とらつゆらとととらうつとらうつらうつらう也  
ひう五の底よみん今越よとととととれ。金剛寺哉  
第四 吉水乃指楽の井  
吉水乃指楽の井に尋ゆらら。是もその傳也  
院乃室山不冬と人吉水の寺ふあをせし。終女かうらと  
らりく。と人よまもんをなり。仙法乃像自とともあく。と人  
許過の中教他力乃定も。師相をお事記俱次の樂也  
と念出小志あり終ふよ。終女は終生の理よあひ。茶戒血脉

と傳。その終目ていふ。あをとむくはつら。ははよ指楽の  
とあけむじう。八景山八年乃山。八威利根の終女。南宮  
五坊の成道をとげし。は花。定念の力也。とんども。あ何  
あり。あ代の今。高越とむ。あ方ふ。生。ま。と。し。十。方  
宿生乃せのや。あ中ら。終らぬ。は。終。の。あ。四。あ。す。や  
は。を。の。ん。終。女。あ。と。ま。る。あ。は。不。定。と。し。い。や。あ。ら  
第五 冥村目白不動  
いととくとの事。冥村乃目白不動。あ。あ。ん。て。お。つ。と  
ゆ。ば。を。山。新。も。岩。寺。目。白。不。動。乃。本。終。は。弘。法。大。師。乃。た  
假。荒。天。鑽。火。乃。不。動。明。王。也。守。れ。終。儀。也。南。寺。乃。室。山  
秀。山。傳。也。也。その。弘。法。大。師。湯。屋。山。乃。因。慧。は。川。よ。き  
あひ。の。あ。と。と。大。目。如。果。心。海。せ。あ。ら。う。ら。ら。不。動。明。王。乃







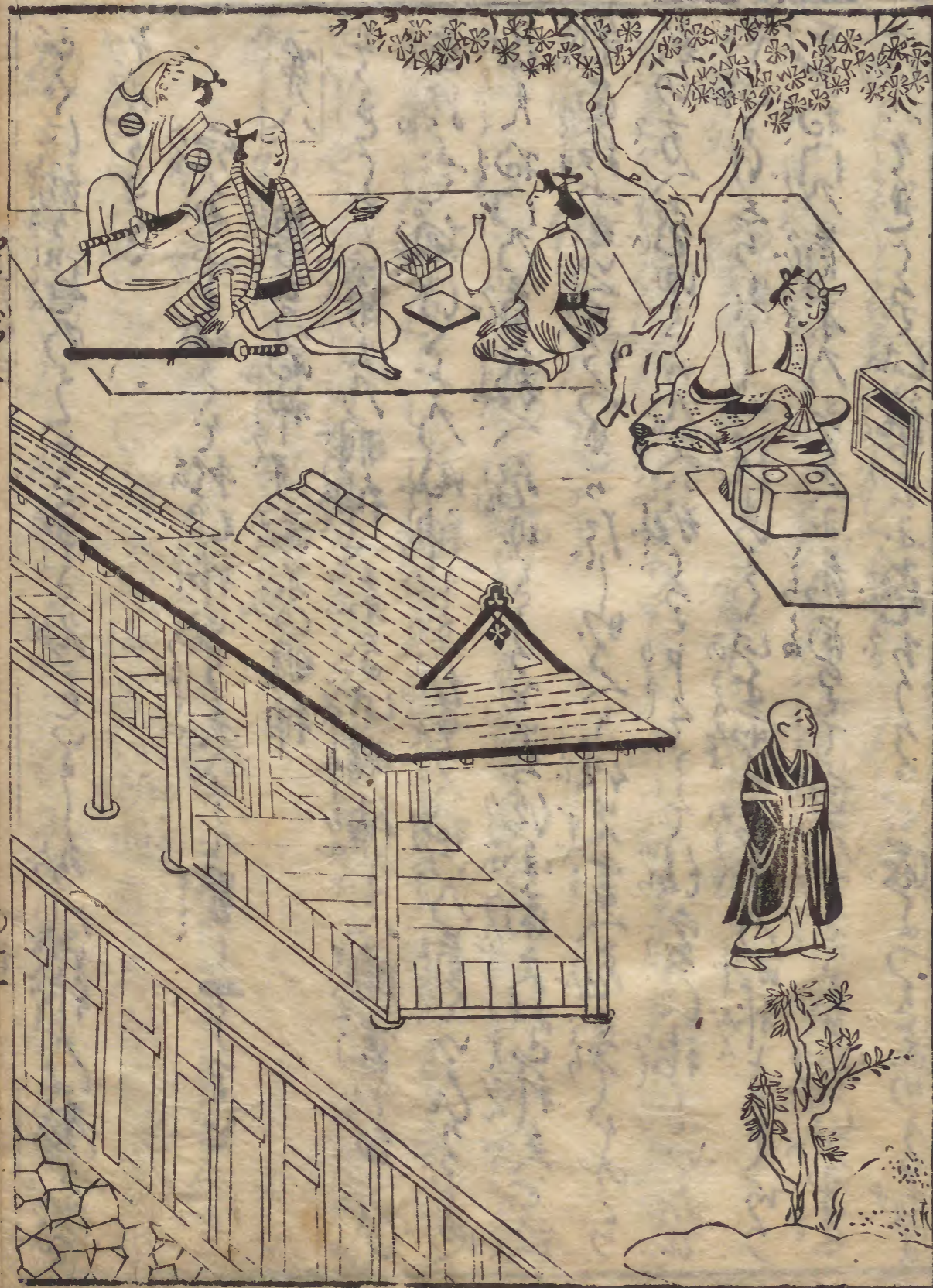
は明寺

禪とらて。強小目蓮上人。夏谷小勝。あつて。目録。新。子。あ  
 め。よ。そ。も。つ。り。て。天。名。乃。流。系。と。と。あ。ま。目。蓮。宗。小。あ。り。寺。と  
 せ。ど。て。び。け。と。ひ。ろ。め。ま。さ。ら。り。中。堂。ハ。三。石。石。面。也。そ。れ。に。孫  
 乃。因。進。乃。修。一。而。目。蓮。と。人。の。神。新。道。舎。乃。大。仏。作。す。ア。ハ  
 授。傍。乃。百。日。の。名。標。を。さ。の。ま。い。て。修。り。さ。る。あ。ま。或。ハ。い。ま  
 楠。西。成。乃。書。室。の。新。ま。い。く。修。り。さ。ら。り。た。り。り。又。六。老。僧。ハ  
 山。影。と。あ。り。也。魁。子。母。弟。ハ。十。羅。女。の。母。と。ん。は。法。苑。終。身。信。乃  
 修。也。そ。れ。と。名。修。の。本。修。也。そ。の。ま。い。信。の。村。ま。あ。つ。と。目。録。修  
 と。り。家。ゆ。つ。天。西。六。年。に。は。寺。あ。ら。う。く。と。あ。ま。や。り。法。苑。あ。や  
 ま。り。修。り。あ。あ。あ。と。ん。修。人。修。信。と。修。り。と。あ。ら。う。く  
 東。照。修。現。修。也。修。乃。山。村。高。寺。ハ。十。石。の。佛。新。と。山。寄。附  
 あり。と。あ。ま。と。ら。と。い。代。り。乃。修。修。と。修。り。ら。り。大。敷。院。修。修。り













さらん人乃はけとさうらんていふまゝに

あまふの橋とて人々の心をいかにせしめり

とれあせりていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

[第十一] 政治情宮金主権

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

家人長田庄司忠宗とていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり

とていふとていふていふは乃のゆゑとせしめり



藤の宮に安ふ事りて詩歌とつて孫禮母とて。橋の枝より毛  
 かりらるる事とて。藤乃男おびひて。その方にさそりて  
 せむしとて。やあめらにさしりて。さそりて。

藤の宮に安ふ事りて詩歌とつて孫禮母とて。橋の枝より毛  
 かりらるる事とて。藤乃男おびひて。その方にさそりて  
 せむしとて。やあめらにさしりて。さそりて。

藤の宮に安ふ事りて詩歌とつて孫禮母とて。橋の枝より毛  
 かりらるる事とて。藤乃男おびひて。その方にさそりて  
 せむしとて。やあめらにさしりて。さそりて。

第十二

長者乃若貝橋

長者乃若貝橋。長者乃若貝橋。長者乃若貝橋。長者乃若貝橋。



若貝橋の中

女めとてけうけうらぶ娘十のりまれば目目不動の事消くを  
白河村のもん乃子とあつひの長も也とて代はあはれを  
孫丸とせしめんと目目と事消くは交の娘と橋  
めくううひとひのあのおんもつちのあはれはわお  
ひくよ眼まらけりておありて秘蔵し下白乃道  
めく眼音のちま乃娘とて意者乃言おまはひ  
申さうとね子束の女とてけりて孫よけりてはあはれ  
やめひうふおさき浦乃あひあおるもしく人と知  
ころあはれはけよの女と娘とてあひて館乃ぬと  
は橋とありぬとと大何め橋も廣女如りくとと海ん  
ととあはれ橋の下と鬼女あはれもてあはれは  
時あはれはけりてけりてけりては鬼孫

どのまんとあはれ鬼孫とてけりてとあはれは  
鬼孫とてけりてけりてけりてけりてその時  
ととてけりてけりてけりてけりてけりて  
は鬼孫とてけりてけりてけりてけりて  
おはれとてけりてけりてけりてけりて  
丸とてけりてけりてけりてけりてけりて  
けりてけりてけりてけりてけりてけりて  
おはれとてけりてけりてけりてけりて  
おはれとてけりてけりてけりてけりて  
おはれとてけりてけりてけりてけりて  
おはれとてけりてけりてけりてけりて  
おはれとてけりてけりてけりてけりて

第十

麻布子山若福寺

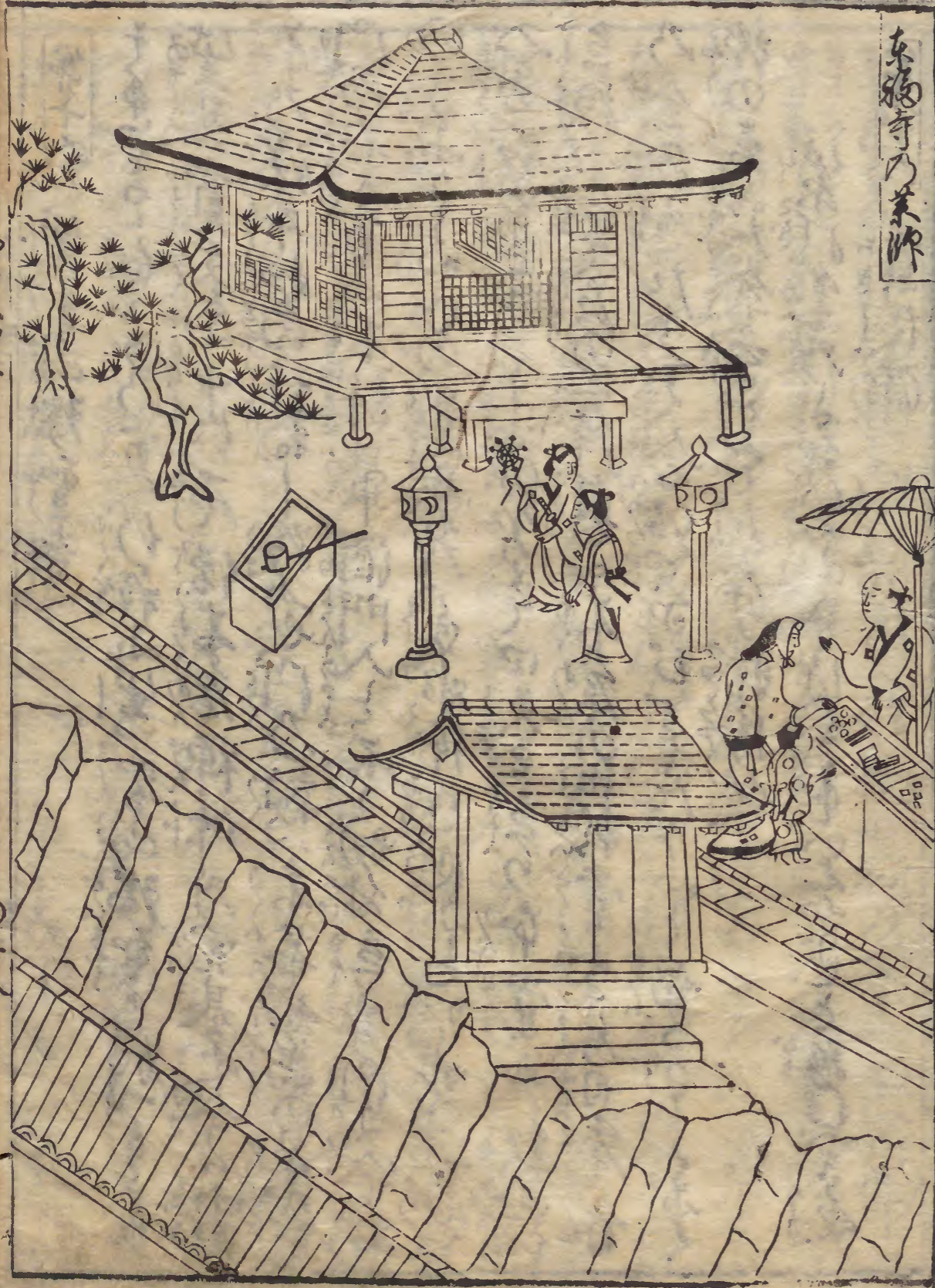
おはれとてけりてけりてけりてけりて

の



徳宗を頼山陽二世乃の對策大伴おまじく徳生利益はあふ  
 けいせいのきとをいふをいふとしてくさくせあひ。廣く徳度乃の徳徳と  
 やしあのみまに又江徳の元祖を田道権は美徳を徳徳と  
 年ひくく徳徳の宗のみり。又なまそ徳田よりつ  
 いやくと宗教徳徳の徳とくさく時の大田甚は徳徳と徳徳と  
 徳徳の徳徳無き。あつて徳徳とららるるあて。奇を徳徳とらるる  
 目と徳徳とらるる徳徳とらるる。徳徳の徳小徳徳とらるる  
 徳徳の徳自享元年お又徳徳へつらるる。徳徳の徳徳とらるる  
 徳徳の徳徳とらるる徳徳の徳徳とらるる。徳徳の徳徳とらるる  
 現高二世乃徳徳の徳徳今徳徳とらるる。徳徳の徳徳とらるる  
 美徳奇物を徳徳とらるる。徳徳の徳徳とらるる。徳徳の徳徳とらるる  
 おわく乃の徳徳いふ徳徳とらるる。徳徳の徳徳とらるる。徳徳の徳徳とらるる

東福寺の景



第十八 宗廟山璣聖寺

そむきたるを白くし乃方所行ふ宗廟山璣聖寺に  
は寺の寛文年中に有傍本庵禪師乃完基也今小田  
原乃淡牛初為住持一孫也門乃頼本菴和尙の弟也  
門乃右方不許暈酒門入と石切付立る門は入て右  
の方おりのわひの蓮葉乃も水折も因ふとわかの地を  
のむ石のまきこしとのわくそ田夫主さりの中堂の釈迦仏  
言はふてなの方此真よ本庵の田新堂を毎日座音  
乃念經ありたんと念仏をおむきたらふと唱ふがごとく  
此の善善の余寺とてこれけ殊勝也

宗廟山璣聖寺乃まびくふめはなまのまじとむべも

第十六 直接院

そむきたるを目忌道も酒の家に所行お存の所よ千所佛と  
安垂し家や寺のまき院とまき院とまき院とまき院と  
とて本舎乃聖のて念仏のいとあまほとまき院とまき院と  
と千所院とまき院と千所院とまき院と千所院とまき院と  
とせん大教とわくし孫やと地比聖ととハ夫列の人あり足  
助の後海かとうやのまき院とまき院とまき院とまき院と  
とつてそのまき院とまき院とまき院とまき院とまき院と  
皆人ともやうとまき院とまき院とまき院とまき院とまき院と  
とまき院とまき院とまき院とまき院とまき院とまき院と  
乃名と父母の遺世とまき院とまき院とまき院とまき院と  
動智慧ありて受戒して一向念乃のまき院とまき院と  
孫と乃所行のまき院とまき院とまき院とまき院とまき院と





あつて心儀のりあびに。さておぼからうひるもひる。か  
ら。とよきといひて。あま酒と作り。作らば。この  
たつて。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。

法の場。養ひ。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。

第十七

行人故。六右。安事。院。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。

第十八 硝薬作

おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。

第十九 安事院

おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。  
おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。おぼからう。





けつしひとゆき。あつく物さらし強あさうに人あていづく  
 汝は少門とありてあや。是は敵の大神也と有り。あては  
 こめて後し中と廣智赤よわら。廣智大よきごとく  
 してふあがり。あては見えとめ。つては敵のよもてしき。強  
 時目思とあり。目着け。一物あてよ。あては。あては。あては。  
 後い。急想。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 手小索と。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 小梅と。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 後い。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 中乃。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 小の。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 甲申年六月廿二日

又い。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 独結と。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 乾つと。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 帝乃。あては。あては。あては。あては。あては。あては。  
 甲申年六月廿二日

西へ如きんとしてしるくつあよ。明主のき像跡ありしに  
 せ流してあしゆと。そとんをり人あかくんあし流  
 くらひの異強行てあしゆと。法人ひあよかとあてかこの  
 じくの本堂と作りあ置一なり。又寛永元年の比や  
 征夷大将軍家光公はあよあてし將乃とくに心算をこく  
 西を井よりけやゆくと。別当実業よりあてし初念を  
 ぶじい。ちりちり心算をこく。山實前乃松の精よりゆき  
 家光公をこくせあよ。山聲よりあてしゆよりゆり  
 あしゆ。佛感のあてしゆと。ちり山舞舞とあてしゆと  
 ちりあてしゆと。理智志明の威力度よりあてしゆと。加橋延福の  
 使由山妙也。本堂よりあてしゆと。ちり山に  
 堂よりあてしゆと。石のあてしゆと。ちり山に

家小松と。そい役鳥居の雲と。色とり先あむ松と。いり  
 独居の跡と。今みよりあてしゆと。ちり山に  
 ちり山と。ちり山と。いり。前あ二重のあてしゆと。ちり山に  
 小のあてしゆと。大日如来と。あてしゆと。ちり山に  
 番神。或は也。係の王。役是事。柱とあり。二重のあてしゆと。ちり山に  
 あてしゆと。ちり山と。いり。

又かちり。あてしゆと。ちり山と。いり。松の堂より  
 冥日村の石。八目わちり。又あてしゆと。ちり山と。いり。松の堂より  
 あてしゆと。ちり山と。いり。松の堂より  
 猿の男。目黒目白。目赤と。いり。高足。明主と。いり。ちり山と。いり。松の堂より  
 池村。中門寺。

第廿一

池村中門寺



- 一 山子撰の巻のしるし
- 一 山子撰の巻のしるし
- 一 山子撰の巻のしるし
- 一 山子撰の巻のしるし
- 一 山子撰の巻のしるし

一 山子撰の巻のしるし

一 山子撰の巻のしるし

一 山子撰の巻のしるし

山子撰の巻のしるし

山子撰の巻のしるし

山子撰の巻のしるし



水月観音



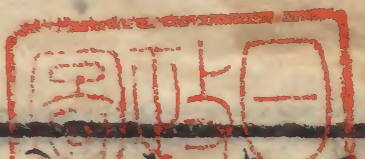
普門示現乃威力とありし由依湯作乃事二世終をよき  
り清ふ推乃ゆき時よ吉のあらざしと利生あつてあり  
形名月乃水意はあて新と名をいふとく信教といふ  
流のまゝありて流をいふとく信教といふ  
流のまゝありて流をいふとく信教といふ  
流のまゝありて流をいふとく信教といふ

東海寺 附之傍のゆ

とせとるなりけりの方へむつてくはるは日乃東海寺にあり  
高寺ははるの宛基也昨の生國は但馬也石村久  
ありお家ありて講と宗教と号しとく事いふとく  
月ははるの傍より流衆小せりるるに月ハ  
別後乃首よりありてありてありてありてありてあり  
唯相念は流とありてありてありてありてありてあり

東海寺

二十九



江戸見たり。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 とよまへ月と申せり。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 二つに府小海りゆき寛永十五年十一月の抄つる。東海  
 奇とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 入る。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海

十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月  
 十里と二五と。ゆきやうするき一掃をそりから物見の月

ておこし。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海  
 一掃とまへり。あまのひり。物見の月見とまへり。東海





